

今年市内で貴重な銅鐸鑄型が発見され

てから、50周年のメモリアルイヤ〜。

知れば知るほど面白くなる、

奥深い銅鐸のセカイに

触れてみませんか？

問合先 文化財資料館 ☎ 634-3433

鑄型の発見から、今年で **50** 周年！

特集

銅鐸のセカイ

in いばらき

いばらきと銅鐸鑄型

50年前の大発見

昭和48(1973)年、弥生時代の集落・東奈良遺跡の発掘調査現場で、文様が刻まれた石が出土。それは、青銅器の銅鐸をつくる際に使われる鑄型のかけらでした。さらに翌年には完全な形の鑄型も発見。これらは銅鐸の生産だけでなくその流通までも明らかにできる大発見であり、その後の発掘・研究によって、東奈良遺跡が弥生時代を代表する青銅器の生産地であったこともわかってきています。

完全な形の

銅鐸鑄型としては

国内唯一の例！

これが鑄型



高さ：43.5cm 横幅：29cm
厚さ：14.5cm 重さ：28kg

- 昭和49(1974)年発見の第1号流水文(りゅうすいもん)銅鐸鑄型(重要文化財)
- その型からつくられたと考えられる復元銅鐸

こっちは銅鐸



気になる疑問にお答え！

そもそも「銅鐸」と「鑄型」って？

Q 銅鐸ってなに？
どうやって使うもの？

銅鐸は、近畿やその周辺地域を中心に、祭りの場で使われていました。銅鐸の内側に舌ぜつという青銅製の細長い棒をぶら下げ、揺らすことで音を鳴らしました。弥生時代当時、金属音自体が珍しかったため、神聖なものとして扱われたと考えられます。また、全国各地で20cm〜1m30cm程度の高さの銅鐸が出土していますが、東奈良遺跡では約30cmと約45cmの高さのものがつくられていました。



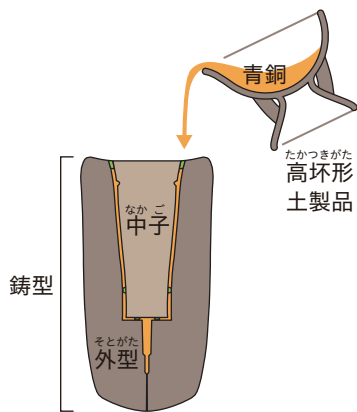
文化財資料館にある復元銅鐸を実際に鳴らす様子

Q 銅鐸と鑄型は
どう違うの？

銅鐸をつくるために、青銅を流し込む型として使われたのが銅鐸鑄型です。東奈良遺跡で見つかったものは石製の鑄型で、銅鐸の形に彫った石に文様を描き、鑄型として使用していました。

Q 鑄型からどうやって銅鐸をつくるの？

2つの鑄型（一対）をぴったりと向かい合わせ、その中に溶かした青銅を流し込みます。しっかりと固まったら、鑄型の通りに文様が刻まれた銅鐸が完成。そのため銅鐸の形や大きさ、文様を見れば、どの鑄型からつくられたのかがわかります。



Q 茨木の銅鐸鑄型は
スゴイもの？

石製の銅鐸鑄型は、鑄型としての役目を終えると刃物などを砥ぐ砥石いじしとして使われたので、かけらとなって発見されるのが一般的です。しかし東奈良遺跡の第1号鑄型は片面がほぼ完全な形のまま出土しました。これは現在でも国内唯一の例として、とても貴重なことなのです。

かけらとして出土した鑄型の数々



インタビュー

出土当時の様子は？



元東奈良遺跡調査会
発掘に携わった白井忠雄さん

当時は空前の考古学ブーム。茨木市でも何か第一級のものが出土するのはと期待されていました。銅鐸の製造について解き明かすカギとなる第1号鑄型の発見当日、私は別の場所でも調査していましたが、その日の調査を終えた夕方に「スゴイものが見つかったぞ」と発掘チームのみんなと盛り上がったことを覚えています。



出土したばかりの第1号鑄型

銅鐸鑄型からひも解く

いばらき弥生ワールド

銅鐸鑄型が使われていたのは、今から約2千年も前の弥生時代。当時の茨木では、人々は集落をつくり、稲作を主な生業として暮らしていました。そのころの様子を、銅鐸鑄型を中心に見ていきましょう。

どうして？

現在の東奈良

二丁目付近で発見

現在文化財資料館がある場所から東へ200mほどの場所で、鑄型は発見されました。周辺からは他にも鑄造[※]に使用された道具などが数多く見つかっており、この場所に青銅器の工房があったと考えられています。

※金属を溶かして鑄型に流し込み、固めて製品をつくる、金属加工法の一つ。



高温の金属を扱う危険な工房を、居住域から遠ざけていたのかも

◎弥生時代中期の東奈良遺跡／木村健明2020「東奈良遺跡の環濠の変遷」『茨木市立文化財資料館館報第5号』を一部改編

どんな風に？

米づくりのかたわら 副業的に製作か

東奈良遺跡の集落では、いくつかの集団が同じ集落に暮らしていました。一部の集団の中のさらに数人が、青銅器生産の工房で作業をしていたと考えられます。毎日つくっていたわけではなく、あくまでも主な仕事は米づくりで、副業的に銅鐸などを生産していたと考えられています。



「送风管・るつぼ・鑄型」のセットでの出土はとても貴重な例！



当時の工房の様子
高温の炎で青銅を溶かし、鑄型に流し入れる工程が行われていた。

土製の鑄型
銅鐸以外の鑄造に使われていた(写真の出土物は勾玉の鑄型)

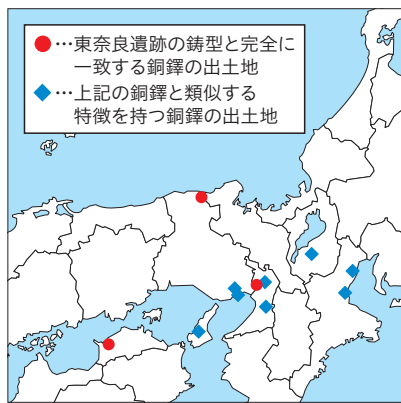
るつぼ
溶かした青銅を入れていた

※イメージ図

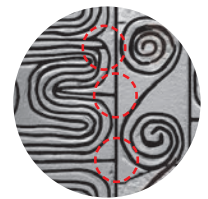
四国や伊勢まで 銅鐸は旅をした

東奈良遺跡の鋳型と文様が完全に一致する銅鐸の発見は香川・我拝師山などの3例のみですが、これらと類似する特徴を持つ銅鐸の出土地を調べることで、どこまで流通していたのかを知ることができません。道の整備も十分でなかった時代に、川や海を越え、はるばる四国や伊勢(現在の鈴鹿市近辺)まで運ばれていたようです。

①東奈良遺跡出土の鋳型(左)と文様が一致する香川・我拝師山鐸(右)



①東奈良遺跡でつくられた銅鐸が出土した場所を示す地図



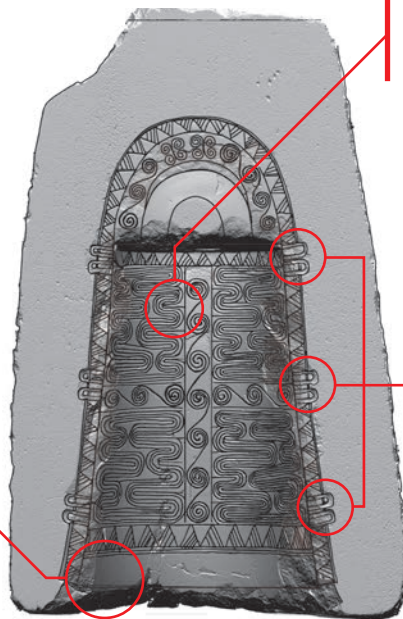
Q CHECK!
文様の書き間違いをごまかした?

うねる線は流水文と呼ばれる文様。他でつくられた銅鐸では上から下まで線が途切れることはありませんが、この鋳型では途中で別の線に合流して途切れているような線も見られます。もしかしたら、線の描き間違いをごまかすおらかな性格の人たちだったのかも。

どんな人が?

鋳型から つくった人の 性格が見えてくる

実は、鋳型について観察・考察してみると、当時銅鐸をつくっていた人々の「人となり」まで想像できるのです。文様の描き方や銅鐸の形など、他の遺跡での出土物と比較しながら、鋳型を詳しく見てみましょう。



Q CHECK!
河内の人との
交流があったかも?

東奈良産の銅鐸は若干古い時代の形を残す一方で、「飾り耳」が片側3つあるという新しい特徴もありました。それは当時、青銅器の一大生産地であった河内で作られる銅鐸にも取り入れられたものであることがわかっています。技術面で人々の交流があったかどうか、研究が進められています。

Q CHECK!
技術や形から見ると、
ちょっと昔かたぎ?

文様がない下部の「裾」と呼ばれる部分の上下幅は、同時期の他所の銅鐸に比べて狭いのが特徴です。これは当時からすると若干古い時代の銅鐸の特徴でもあります。そのため、古き良き形や技術を大切に、少し昔かたぎな人々だったとも考えられるのです。

コラム

弥生いばらき人の ルックスを 想像してみる

遺跡からは、人をかたどった土偶や人の描かれた土器が出土しています。また、出土品の中には、髪にさしていた櫛や首飾りの一部と考えられる鏡の破片など、装飾品も多数。それらから、当時の茨木に住んでいた人々の姿を思い浮かべてみるのも面白いですね。



①人面付土器 ②弥生土偶 ③木櫛 ④破鏡
※①は目垣遺跡、②～④は東奈良遺跡にて出土

銅鐸のアレコレ

もっと知りたい！楽しみたい！

知る

資料館で
トコトン深掘り

9/30(土)～11/27(月)

「銅鐸をつくる －弥生時代の鑄造技術－」

多くの銅鐸を所蔵する^{たつしま}辰馬考古資料館(西宮市)と連携した特別展。銅鐸をつくる技術にスポットを当てており、東奈良だけでなく弥生時代の日本全体の鑄造技術を学べます。期間中はクイズラリーも開催。
※通常は銅鐸鑄型のレプリカを展示していますが、特別展では実物を展示します。



この秋は、文化財資料館がおもしろい！
50周年を記念した特別展や講演会で知見を深めたり、体験に参加したり、周辺で銅鐸モチーフを探してみたり…。
もっと「銅鐸を楽しみたい」人は、ぜひ文化財資料館へ！

10/28(土)

公開鑄造「大阪湾型銅戈・小銅鐸の鑄造」 どうか

弥生時代の鑄造技術に詳しい現代の鑄金作家が、実際に銅鐸を鑄造する様子を見学できます。

時間 14:00～
申込期間 9/30(9:00)～10/9(17:00)
※応募者多数の場合は抽選



詳しくは
こちら▶



自分の手で
完成させる!?

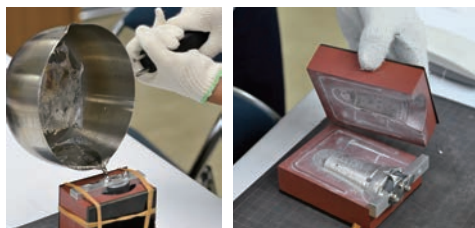
造る

9/30(土)～11/25(土) ※期間中の10/28、11/4を除く土曜

鑄造体験 ミニ銅鐸鑄型を使って、手のひらサイズの小さい銅鐸をつくってみよう。
2部制(受付開始: 9:30～、13:30～) / 当日先着 / 定員各2人

レポート ミニ銅鐸づくり体験に行ってきました！

溶かした金属を慎重に鑄型に流し込み、真剣な表情で作業する子どもたち。鑄型を開く工程では、驚きの表情や笑みがこぼれる瞬間も。できあがった自分の銅鐸を鳴らして、音の聞き比べも楽しんでいました。



夏に行われた
体験会の様子

カラカラ音が鳴るのが、想像より大きい音で面白い！ランドセルにつけて登校します！
藤原柚基さん



細かい部分がうまくいかずやり直しましたが、とても楽しかったです。
藤原颯乃さん

実は「紙」でも
つくれる!?

銅鐸 ペーパークラフト



▶詳しくはこちら



考古ロマン
語られる

聴



講演会

10/22日

「銅鐸研究の歩みと
東奈良遺跡・辰馬考古資料館」

講師：青木政幸さん（辰馬考古資料館学芸員）

11/26日

「近畿地方における銅戈の生産
-茨木市東奈良遺跡出土の土製銅戈鋳型をめぐって-」

講師：菊池望さん（東京国立博物館研究員）

講座

10/11水～11/22水

※期間中の11/1を除く水曜

学芸員講座

各回によりテーマは異なる

講師：清水邦彦（本市学芸員）

時間 講演会：14:00～15:30（13:00開場）

講座：14:00～15:00（13:00開場）

定員 各80人（当日先着・事前申込なし）

街中にひそむ
銅鐸を探そう！

見

つける

東奈良遺跡は、現在の文化財資料館がある周辺一帯です。それにちなんで、まちのなかには銅鐸をモチーフにしたものがあちらこちらにあります。あなたはいくつ見つけられますか？

✓ 奈良東公園



✓ 東奈良あやめ北児童遊園



✓ 東奈良小学校



✓ 東奈良あやめ南児童遊園



✓ 東奈良橋



チャレンジ

全箇所を撮影して、文化財資料館の窓口へ。写真(画面可)を見せて「おにクルグッズ」をゲットしよう！※先着90人



✓ 小川沿い



✓ 杉ケ本橋



✓ 東奈良史跡公園



文化財資料館

東奈良三丁目12-18 / TEL.634-3433 / 9:00～17:00 / 火曜・祝翌日休 (火曜が祝日の場合、または祝翌日が日曜の場合は開館)

ぜひ遊びに来て下さいね！



文化財資料館 館長 黒須靖之